

○論点整理

1 学校運営への参画

【現状認識（課題）】

社会が大きく急激に変化する中で、子どもたちは自らの興味関心を基点とした問題意識から調査し、探求していくといった新たな学びが必要であるが、学校だけで行うには限界がある。学校、保護者、地域などが一体となって子どもの教育について話し合い、協働する社会総がかりでの対応が必要となってきたのではないかな。

また、学校に関わる様々な組織や会議があるが、関係性が薄く、協力体制も十分なものとなっていないので、これらを見直すための新たな仕組みが必要となるのではないかな。

【論点】

- ・学校が目指す教育目標を地域と情報共有することが必要ではないかな。
- ・どんな子どもに育って欲しいか、ビジョンと目標を学校や地域に関わる者が集まって共通認識を持つことが必要ではないかな。
- ・学校や地域に関わる者が意見を出し合い、一定の方向性を共有できるような場が必要ではないかな。
- ・学校や地域にどのような子どもがいるかをお互いに知る機会が必要ではないかな。
- ・学校、保護者、地域などの社会総がかりで教育を進めていくことが必要ではないかな。また、それぞれが抱える負担や課題をお互いに認識し、協力することが必要ではないかな。

2 地域資源の共有と特色ある教育活動の充実

【現状認識（課題）】

学校を支援する色々な取組はすでにある。しかし、教職員の個人的な関係性や一部の熱心な地域の方に依存している面もある。教職員は人事異動等があり、地域の担い手も減少し、高齢化が進むなかで、継続的な取組とするには不十分な状態にあるのではないかな。

また、学校は地域にどのようなものがあるかを十分に把握できていない。知られていない、活用されていない地域資源があるのではないかな。

【論点】

- ・既にある学校を支援する取組や地域活動を持続可能なものとしていくことが必要ではないかな。
- ・持続可能な活動となるよう属人化から組織化、ネットワーク化を図っていくことが必要ではないかな。
- ・地域資源を発掘していくための仕組みが必要ではないかな。

3 学校を核とした地域活動の展開

【現状認識（課題）】

子どもは地域社会の一員、学校は地域を構成する重要なメンバーという考えから、また学校が地域の中心的な場であったという経緯から、学校を改めて地域の活動の場、拠り所に位置付けする必要があるのではないか。そして、地域活動を持続可能なものとしていくためにはどのような仕組みが必要となるか。

また、家庭や学校以外にも子どもの居場所を確保するには、子どもたちにとって安心して暮らせる地域にするにはどのような仕組みが必要であるか。

【論点】

- ・地域学習を通じて子どもと地域の人との関係性を深めていくことが必要ではないか。
- ・地域の人を結び付けていくための仕組みが必要ではないか。
- ・地域の人へ学校でやっている取組をもっと周知する仕組みが必要ではないか。
- ・安心して過ごせる子どもの居場所を、地域において確保する仕組みが必要ではないか。